

遊びと環境

図鑑・電車・レール・車

テーマ設定理由

駅前にある当園は走っている電車を見ることが日常で、間近で見る電車や働く車は子どもたちにとってスーパースターの存在である。「遊びと環境」をテーマに手先を使って線路をつなげたり、図鑑をみて調べたり、友達と協力して作りだす力を育む。

問いを考える

初めは一人でお気に入りの電車を走らせていた子が、線路をつなぐことを覚え、友達とどうか関わり互いにどう影響し合うのかについて考える。

活動期間

令和6年7月～令和7年3月

対象クラス

1歳児 8名 2歳児 9名



環境をデザインする

馴染みのある横浜線以外の車両を見たい、知りたいという子どもたちの声に応じて図鑑を用意したり、隣駅にある長津田検車区に出かけ、ずらっと並んでいる様々な路線の車両を見に行くことで、それがどう子どもの遊びに影響するかを観察した。時にはパテーションで仕切り、働く車を出したり遊びに存分に没頭できる環境設定をした。

活動内容



入園当時の1歳児のお友達。
持っているだけで、安心していました。



園生活に慣れてくると、周りにも興味を示し、1つ上のお友達の遊ぶ様子を見よう見まねするようになりました。



1つ上のお友達の作ったレールの上を走らせたり、レールの上を電車が観察するようになり、職員と一緒に簡単なレール組み立てを楽しむようになりました。



車両を長くつなげ、どちらの電車が比べています。



おやすみの日に乗った電車を思い出して表現したり伝え合ったり、運転手さんになりきって遊ぶ姿も出てきました。





使いたい電車が手に入らなかったり、うまくレールがつながらなくて怒って泣いてしまうこともありましたが、パーテンションで区切ったり、図鑑を用意したり、誰もが無理なく遊べる環境を整えるうちに少しずつできることが増えていきました。長くつなげられるようになった頃から、「仲間に入れて」と言って輪に入ったり、「その電車かして」「今使っているからちょっと待っててね。」「こっちを作るから〇〇くん（ちゃん）はあっちを作って繋げようよ」と一人遊びから共同遊びに変化していきました。





友達と遊ぶことで、一緒に遊びを作る楽しさやもどかしい思いをした経験を通して、我慢したり譲ったりし合うこともだんだん身についてきました。今この瞬間を大切にしながら、探求を重ね、保護者と連携しながら、今後に繋げてまいります。

